

財団事務所は豊橋駅近くの穂の国とよはし芸術劇場内にありますが、それでも外に出ると虫の音が聞こえ、秋の訪れを感じるとともに、夜の風にはすでに冬の気配を僅かに感じるようになりました。文化の秋と言えども、コロナ禍で中止となる行事も多くあり決して華やかな文化祭期間という訳にはいきません。しかし文化芸術は瞬間的な喜びをもたらすものであると同時に、生涯を通して自分なりの物の見方や感じ方を探求していくものであり、それこそが醍醐味の一つです。こんな時だからこそ、そんなことも意識していきたいですね。

## 豊橋文化振興財団設立20周年記念式典&講演会

豊橋文化振興財団は平成13年に設立され、今年で20周年となります。また、その前身組織である豊橋文化協会の設立から数えると75周年となります。この節目の年に、下記のとおり記念式典と講演会を開催いたします。また、定員には余裕がございます。ぜひ、整理券を確保の上、ご来場くださいますようお願い致します。

とき ● 令和3年11月3日(水・祝)午後2時開式  
ところ ● ライフポートとよはしコンサートホール  
記念講演会 ● 講師・渡辺えり(劇作家・演出家・俳優・歌手)

▶表彰式/豊橋文化賞、豊橋文化奨励賞表彰式  
▶オープニング演奏/藤ノ花女子高等学校箏曲部  
▶参加料/無料(要・整理券) ▶整理券の配布/豊橋市民文化会館、穂の国とよはし芸術劇場窓口、ライフポート総合案内所で10/15から配布いたします。※お一人4枚まで



渡辺えりさん



私は、眼に見えないものこそ形にしたいのです。

萩原ヤスオ(内面旅行者 写真家)

## 豊橋文化賞・豊橋文化奨励賞受賞者決まる!

豊橋文化賞/伊藤陽扇さん 豊橋文化奨励賞/浅野純子さん

令和3年度の豊橋文化賞に、民謡歌手で伊藤民謡会家元の伊藤陽扇さん、豊橋文化奨励賞には舞踊家でASANOインターナショナルバレエを主宰される浅野純子さんが選ばれました。表彰式は、11月3日(水・祝)にライフポートとよはしで開催される、財団設立20周年記念式典にて執り行います。

## 受賞者インタビュー

### 豊橋文化賞

伊藤陽扇さん(民謡歌手、伊藤民謡会家元)

#### 【受賞理由】

昭和46年に伊藤民謡会を創設し、以来50余年にわたり民謡指導者として会員の歌唱技術の向上と後継者の育成に力を尽くしてこられました。またプロの民謡歌手としても活躍し、とりわけ東三河の民謡にも心血を注ぎ取り組むとともに、地域での民謡慰問活動にも意欲的に取り組むなど、長きに亘って伝統民謡の伝承と普及、発展への貢献はもとより、民謡を通して地域に活力と喜びを与え続けてきた充実した活動は高く評価されます。

#### ●民謡を始めたきっかけを教えてください。

私は、子供の頃から歌が大好きで、ラジオから歌が流れてくるとすぐ暗記して歌い出すような子供でした。仕事で最初は自衛隊に入隊し、名古屋、京都、奈良と転属して、最終的には姫路に落ち着くことになるのですが、その頃は、橋幸夫、舟木一夫、西郷輝彦の御三家が活躍していた時代で、もともと歌が好きでしたから、自分も歌を習おうと思って姫路で習い始めました。実際に歌ってみると意外とキーが低く、先生に「伊藤さんは民謡向きだよ」と言われまして、それで今度は自衛隊の民謡クラブに入りそこで勉強とか、当時は趣味として民謡をやっていました。

#### ●趣味ではじめた民謡が本格的になっていったのはいつ頃ですか?

姫路から岡山に転属になる話があって、そのタイミングで愛知県へ帰りたいなあと思い愛知県庁の中途採用を経て、豊橋にあった三河港工事事務所で働くことになりました。5時には仕事が終わり、当時独身でやることもなかったので詩吟の会に入り習い始めました。割合すぐ上達して先生になり生徒を教えたんですが、忘年会のときに民謡を披露したら、生徒から民謡も教えてほしいと言われ、それで民謡も教えるようになったんですよ。ちょうど、その頃は民謡が少しブームになりつつある頃で、生徒もすぐ100名くらいに増えてしまっ(笑)、公会堂で発表会もやって新聞にも取り上げられるようになって、最盛期の時は80教員になるので県職員か民謡かどちらかにしなさいと言われ、それなら自分の好きな民謡をやりたいと思いい家に相談したら「好きなようにしたら私は付いていきます」と言ってくれたので、そこで民謡一本でやっていくことになりました。

自衛隊のクラブでは30曲程度しか会得していなかったもので、それではすぐ教え尽きてしまうので、秋田の浅野梅若先生と原田直之先生にも民謡を改めて習いました。

当時はまだカラオケも流行る前の時代で、NHKで「民謡をあなたへ」という番組が人気になるなど、大きな民謡ブームがあったお陰もあり、民謡を習いたいという方があちらこちらにいて、最盛期の時は80教員会員1100名まで増えました。上手な生徒さんから先生を20名くらいの方に頼んで、僕も1日に3か所くらい回る忙しい日々でした。

#### ●民謡の魅力とはどんなところですか?

民謡は昔から唄い継がれてきた唄で、民謡に作曲者・作詞者はいません。漁師が大漁を喜んだ唄であったり、山で木を切る人が寂しさにまぎれて唄ったものであったり、農家の方が田植えや稲刈りをする時に唄ったものなど、多くは自然派生的に生まれた唄です。それを聞いた人が真似して唄い、そしてまた引き継がれていくことでどんどん変化していったと思うんですけど、声のいい人の唄が残ったのだと思います。さすがにいまは五線譜にされていますが、

それから昭和初期には新民謡、創作民謡ブームというのがあり、それには作詞者、作曲家がいて「天竜くれば」や「ちゃっぴりぶし」などがこの頃出されました。民謡はとにかく発声の前へ前へというところで、一

声二節と言われまして、とにかく腹から声を出し自分なりに一番高い音で声を出すのが特徴です。健康にもすごくいいですよ(笑)。

東三河にも昔からの民謡が多くあって、40年くらい前に自分で設楽や渥美の方へ行き、当時はまだ唄える方も残っていたので教えてもらい、自分が唄い収録してCDにしましたし、「三河路の民謡を訪ねて」という本も出版しました。今は田植えにしろ、稲刈りにしろ機械ですから、のんびりと唄を唄いながらという時代ではありません。取り残されていこうこの地域独自の民謡をなんとか後世へ伝えたいの思いでした。

#### ●コロムビア専属歌手として、またボランティア活動など長年にわたり活動されてこられました。

コロムビアからレコードを出したのは昭和54年の「ああ、長篠城」が初めてで、きっかけは名古屋の舞台に出たときに、名古屋の作詞家の服部鋭夫先生から、「君は声がよくて将来性があるからコロムビアに紹介するよ」と言ってもらったのがきっかけです。その2年後に専属契約となりました。

慰問活動にも力を入れ、昔は敬老会なんか1日5か所くらい回ることもありまして。今でも敬老会や福祉施設への慰問などで1日2か所くらい回りますよ。善意銀行に入っているのですが、そこが掛かれば最優先で引き受けます。舞台が好きですし、声が掛かればどこへも行っていて皆さん楽しんでいただくことに何よりやりがいを感じます。

伊藤民謡会を創立して50年になります。もちろん唄が好きでやってきたのですが、でも教えているうちに、生徒さんたちが「今日は楽しかったね」「来てよかったね」と言ってくれてニコニコして帰っていく、その姿を見るのが自分にとっての喜びで、それがあって50年続けてこれたのだと思います。

#### ●まだまだ今後の夢などありますか?

自分は、あまり遠くにある夢はほとんどもったことがないですよ。現実味のある夢しかありません(笑)。一日一日を大事に積み重ね、それがいつか花開くように自分を充実させチャンスがあればパッとつかむ、悪いことが起これば臨機応変に対処すると、毎日日々のことをとにかく大切にしています。最近は、新型コロナウイルスの関係で教室も減りましたので、でも声を出さないといけないので毎日30分は発声練習をしています。それから、声だけでなく腹筋運動なんかもしないと喉がすぐに枯れてしまいますから、毎日夜の近くの「リスパ」へ行ったり1時間はお腹を中心に鍛えています。

でも本当にここまでやってこれたのは、自分一人の力ではなく、皆さんが応援してくれたり支えてくれたっていうことが一番大きいと思っています。妻が「好きな道に行ったら」と言ってくれて、昼も夜もないような仕事ですが、自分に付いてきてくれて本当に感謝しています。

### 豊橋文化奨励賞

浅野純子さん(舞踊家、バレエ教室主宰)

#### 【受賞理由】

ロシアへの留学を経てプロのバレリーナとして活躍するとともに、帰国後はバレエ教室を主宰し、一貫してバレエに情熱を注いでこられました。レニングラード国立バレエ団(現 ミハイロフスキー劇場バレエ団)のトップソリストを招き豊橋で共演するなど、優れたバレエ技術と高い芸術性をもった多くの舞台へ出演するほか、後進の指導にも力を注ぎ、コンクール入賞者を多く輩出するなど、地域のバレエ及び舞台芸術文化の普及・振興に大きく貢献しており、今後の更なる活躍が期待されます。

#### ●バレエを始めたきっかけを教えてください。

私は、3歳からバレエを始めたんですけど、戦後豊橋で最初バレエの普及に努めた笹野又起子が

私の大叔母にあたるので、大叔母の家に遊びに行くうちに自然に習っていたという感じで、正直、習っていたという意識はあまりないんです。きちんと意識して習っていたのは、小学生くらいですかね。お稽古事としてレッスンに時間通りに習いに行って、1年に1回発表会があって、きちんとやらないといけない意識がその頃にはありました。でも、もちろんバレエの道に進みたいとか、ましてプロになろうとは思っていませんでした。当時の夢は通訳になることでした。私は母が台湾出身で、私も自然と中国語が話せるようになっていたので、バレエはもちろん好きでしたが、将来は台湾に留学して中国語を勉強したいと思っていました。

#### ●バレエへ方針転換したのは何かきっかけがありましたか?

きっかけは、小学校6年生の春休みに笹野先生から提案されてベラルーシの姉妹校へ2週間の短期留学をしたことでした。その時に、自分にとってはお稽古事に過ぎなかったバレエが、現地では選抜された子供たちが本気でレッスンに取り組む姿にショックを受けて、そこから自分もレッスンへ取り組む姿勢が変わりました。

翌年、翌々年とさらに短期留学し中学2年生の時に「プロへ進めるだけの素質もある」と現地の先生に言っていたとき、それなら本格的にバレエの道を目指してみよう、後々苦勞もすることになるのですが、今思うと割と簡単に決めました。ロシア語も話せるようになるならいいな、くらいの気持ちで(笑)。

高校生の時にはすでにロシアへ行ってバレエをするというイメージが自分の中にできていたので、留学に迷いはなかったのですが、当時はロシアも大変な状況でしたインターネットもない時代ですから、単身でロシアへ送り出してくれた両親には本当に感謝しています。

#### ●バレエ学校での留学生活はどうでしたか?

もちろん厳しさは覚悟していましたが、当時のロシアはとて厳しくて外国人に対して閉鎖的だったので、それがカルチャーショックでした。それに現地のスクールでは下は7歳から入学するんですけど、自分が家族を背負っていった、バレエで人生頑張っていくんだっていうハングリー精神がものすごく、これには自分の根性を叩き直されました。でも、バレエについては自分も努力してきましたし、競争の中でプロになりたいという意識も強く芽生えるようになりました。語学は勘がいいのか得意でバレエ以上に語学がすこいって言われたこともありました(笑)。バレエの教授法の試験では筆記もあるのですが、外国人の私にはある意味バレエ以上に大変な試験なのですが、そのお陰で、卒業時にはバレエと教授法の両方の国家資格に合格することができました。

#### ●4年間、レニングラード国立バレエ団(現 ミハイロフスキー劇場バレエ団)に所属した後、日本で教室を主宰されます。

レニングラードは現在のサンクトペテルブルクですが、ロシア第2の都市で歴史の古いく綺麗な街

です。世界的にもレベルの高いバレエ団だったので、ロシア全土から優秀な人、才能豊かな人が集まりまして、舞台では失敗は許されないという環境でした。そしてそのために誰もが日々手を抜かず努力を続けるという本当に厳しい環境を過ごしました。

そして4年在籍後、27歳の時に思うところあって、自分が習ってきたものをアウトプットしたくなりました。バレエは歌、ダンス、ミュージカル、ジャズ、アイススケートなどでも基本となるものです。本物のバレエを子供たちに伝え、バレエを通して子供たちの可能性を広げたいという自身の気持ちを抑えきれず、バレエ団を退団し日本へ帰り郷里の豊橋で教室を開きました。

#### ●教室を開かれて随分時間も経ちました。心境の変化や、教えるにあたって大切にしていることを教えてください。

子供に教えるのは本当に難しいです。もう18年経ちますが同じ子は一人としていません。1、2年で変わる子もいれば、4、5年でガラッと変わる子もいる。5年後にこんな風になるとは思わなかったという、いい意味で変化のある子もいて、やりがいがあります。私も生徒のお陰で少しずつ先生として成長してきたという感覚があって生徒に感謝しています。10年も経つと教え子たちから、先生のお陰で今こうい自分になりますとか、この道に進んで頑張っていますというような話を聞くようになり、社会に出て立派な大人になってくれる姿を見るのが今は何より嬉しくて、バレエを通して社会に出て強い気持ちを持った子を育てたいという想いが年々強くなってきました。

#### ●最後に先生の夢を聞かせてください。

夢は、もちろん自分の門下生が、今でもエンターテインメントの世界や劇団四季で頑張ってくれていますが、彼らがそれぞれの道を見つけてその世界で活躍してくれることで、今はそれが最大の喜びです。でも、バレエの道に進む子も出てきてほしいとさらにさらに強く思っています。昔ほど留学は大変ではありません。私が留学したときは、外国人は私とノルウェーの子一人でしたが、今は、全世界から人が集まって来ます。ポスは限られているのでダンサーになる難易度は上がっていますが、多くの子にチャンスがあるとも言えます。チャンスがあるのですから、なおさら自分の教室からプロとしてバレエの道へチャレンジする子供を育てたいという気持ちがあります。これが今の夢です。

その一方でバレエは本当に特別なことではなく、どんな方でもやることができます。決して選抜された人だけのものではありません。外国だと身体検査から始まって遺伝的なことまで調べられますが、そういう世界とは違った日本ではどんな人でもバレエをやれます。それが日本でここまでバレエが広まった大きな理由の一つです。今は本当に多様性が求められる時代で、体形や素質だけでバレエを語る時代でもなくなってきています。男性が大人になってからやってもいいんです。多様な方たちが参加しやすい教室にして、さらにバレエを身近で誰もが親しめるものにしていきたいです。



## 「ゴールデンカムイ」

野田サトル 作 集英社 刊

画家 社本善幸

最近遅ればせながらはまり込んでいるマンガ「ゴールデンカムイ」は203高地の激戦から始まる。「お前も武士の子だ」と罵られた農民の若者たちが、国家幻想のぶつかり合う丘の上で挽肉粉砕機にかけられるように爆死してゆく。放送中の大河ドラマでも群馬の豪農の息子たちが「俺もサムライに成る!幕府を倒して外国人を殺す!」と狂気じみたことを毎週絶叫していた。片や浅田次郎の「壬生義士伝」に描かれていたのは武蔵野の豪農の息子たちが「サムライに成り」結成した幕府親衛隊と、そこに合流した東北の極貧武士が惨敗し死にゆく姿だった。

今の「サムライ」という概念は、幕末から明治にかけての時期に、西欧のジェントルマンに對置するカタチで人工的に準備された日本にも思える。それは西欧列強に對置する「日本」という国家幻想

を形成してゆく過程での話だろう。だとすれば最近よく耳にするジェントリフィケーションという言葉は、翻訳すれば「武士化」ということにもなるかもしれないが、それでは意味が破綻してしまう。これはこれで最近よく言われる「日本語は壊れている」ということのひとつかもしれない。

ゴールデンカムイの作者は日本とロシアの緩衝地帯としてアイヌ民族はじめサハリンやアムール川流域の少数民族に流儀を当て、国家の幻想性を炙り出しているように思える。そしてその幻想に取り憑かれた新撰組の亡霊たち…





※この予定表は予告なしに変更になる場合がありますので、事前にお確かめください。入場料は前売料金。

市内文化団体主催および豊橋文化振興財団が後援する催し物を中心に掲載しています。掲載のご希望は、問合せ先までご連絡ください。

11月 イベントスケジュール表。3日(水)から28日(日)までの日程。第47回豊橋音楽連盟コンサート、財団設立20周年記念式典、澄心会書道展、西村能舞台稽古、チャールズ会豊橋展、水曜短歌会、第236回東陽ふれあい音楽会、第71回島倉千代子さんを偲んで追悼コンサート、第63回邦楽大会、豊橋ウインドアンサンブル第52回定期演奏会、第71回新星歌の楽園、第32回MOA美術館豊橋児童作品展、愛知大学吹奏楽団第54回定期演奏会、第30回吉田文楽保存会定期公演、日曜短歌会、第51回豊橋連舞踊フェスティバル、地区市民総会、第237回東陽ふれあい音楽会「音の世界旅行と時間旅行」、地区市民総会、ええじゃないか!豊橋和太鼓フェスタ「響」2021。

12月 イベントスケジュール表。1日(水)から26日(日)までの日程。第238回東陽ふれあい音楽会「映画音楽で世界旅行Ⅶ」、茶道クラブ月例会、豊橋交響楽団第126回定期演奏会、水曜短歌会、日曜短歌会、劇団M.M.Cオリジナルミュージカル「星の王子さま」、冬休み伝統文化こども教室、冬休み伝統文化こども教室。

第63回 豊橋邦楽大会

(民謡・新舞踊・民謡・箏曲・三味線・長唄・大正琴・小唄)

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初の予定を変更し一部簡略化した上で開催いたします。出演団体等は下記のとおりです。

- 会場/豊橋市民文化会館ホール 入場料/無料(要:整理券)
11月13日(土) 正午開演
出演/藤本みすじ会、邦和会、結月流元佳照会、大河流寿見興会、浅香乃流美よし会、葵民舞研究会、民舞むらさき会、静駒会、清昇会(出演順)
11月14日(日) 11時開演
出演/琴城流大正琴 アンサンブルハーブクィーンズ、三河太鼓友会、伊藤民謡会、琴修会豊橋東、花桃の会、琴修会豊橋西、秋桜、新舞踊紅豊会、豊橋竹道会、つゆの会、壁谷和子社中、長唄くら会、箏曲みどり会、箏曲加藤信子社中、寺村里依社中、春日と津満糸会(出演順)

文化短信 (令和三年八月)
日曜短歌会
「みるく世」と琉球言葉に涙せし戦後とほくに国民の悔
山里に雲の嶺たつ百日紅あか
あかと燃ゆる家の跡に
採りたての三つ葉をさつとお
浸りに湯はさみどりになり
日曜の朝のルーチン、音楽の
泉をかき消す熊のこゑ
魚と鯉を足して割つたら河童
かなそんな気配のする里の川
カフエラスに夏の日差しを感
じつつ回す水の音響さあう
夕ぐれに田仕事終えて帰る
く農夫の影が家路急げり
青信号続く国道うたのアクセ
ル軽し初夏の陽輝く
歌「刀」は「孫が好んで唱う
の散歩は緊張ばかり
伊藤はつあ

▼第六四回 令和三年九月
田園の中に古民家星月
ウオーキング誘ひ誘はれ星月
波音の虚なる闇星月
秋扇や選る晩学の舞踊
恙無くひと日終わり 篠田和代
訪ふことも訪われる 高橋良子
惜しむことも訪われる 鳥居節子
政界も世も乱れ星月 林 春美
疫病の増ゆる吾が町星月 彦坂艶子
語り種三河の奥の星月 藤田源一
サーカスのテントの寝入る星月 河合澄子

豊橋の文化活動—アーカイブス⑨

～機関紙「豊橋文化」の変遷～前編～

平成3年10月1日付の「豊橋文化」に岩瀬正雄氏が掲載した「豊橋文化」生いたちの記」の中で、豊橋文化協会(第二次文協)の歴史とともに機関紙について次のように触れています。

「発足当初の話」
「豊橋文化協会が発足したのは、昭和21年2月23日であり、規約や役員が決まったのは少しおくれで同年11月25日だった。役員は会長神野太郎、常務理事浅井秀雄、佐藤憲一、理事浅野甚七、岩瀬正雄、白井一二、鈴木尚、鈴木清、高須光治、野沢東三郎、山本貞さんだった。河合陸郎、藤井草宣、富安昌也さんは委員ということだったが、富安さんは間もなく理事に加わった。当時、各役員は事業を分担することになっていて、常務の浅井さん、佐藤さんは会全体の運営にかかわり、鈴木尚、鈴木清さんは音楽、高須、富安さんは美術、山本、浅野さんは写真、野沢さんは科学、白井さんと私は文学を受け持った。事務所は商工会議所の石の階段を上って突きあたりの右のところにあり、事務の岡部幸一さんはじめ、役員の方々は毎日顔を出していた。部屋の真ん中にダルマストーブがあり、みんな焼跡から木切れを拾ってきて、ストーブをかこみ新しい事業のことを熱気をもって語り合った。機関紙を出そうではないか、と私が提案したことが始まりで、5月に「豊橋文化」第1号が出た。発会式の会場の図書館の3階の窓から市街を眺めた高須さんのスケッチがあったのでそれを中心に、神野太郎、藤井草宣、伊藤健児、河合陸郎、野沢東三郎、佐藤憲一、岩瀬正雄、鈴木清、岡田歌陽、白井一二さんが執筆した。小エッセイ的なものが多く、事業予告をわざわざ載せた。タブロイド半紙4ページで豊橋に印刷所がなかったのが長野県岡谷の鮎沢という印刷所に頼んだ。ところが出来上がってきたのをみて私はすっかり落胆してしまった。レイアウトを綿密にしていなかったのか高須さんの絵の周囲に空白が目立ち、遠方のため校正もなかったのが誤植があり、まことに不様な創刊号であった。これは私の責任というより外はなかった。」

「浅井秀雄氏にバトンタッチ」
「豊橋文化」は25年の125号から浅井さんが受け持つことになり、浅井さんは新聞人で編集にも手馴れていた。内容においても、郷土の歴史、市政、街の景観など、文化活動の視野をひろげていった。私もその後、数年また編集に携わったが文芸中心になりがちだった。それでも図書館勤務の山口玄(山口源吾)さんに時々手伝ってもらっていたが、昭和56年4月、山口源吾さんが退職されたので、専任編集者にむかえ今日に至っている。「新風」欄の新設、行事のピーアールと伝達、短歌や俳句作品、芸術、自然保護のエッセイ、それに写真を配し、豊橋文化協会の機関紙の本来の使命をよく果たしている。(後略)
そして昭和43年4月1日には、「豊橋文化協会」と豊橋市社会教育課で扱っていた市内96団体をまとめた「豊橋文化団体連絡協議会」(昭和36年に組織)を母体に、豊橋市の拠出金1000万円に寄付金を加えて基本財産とし、「社団法人豊橋文化協会」(会長:神野太郎)が発足し、各種文化団体が参加しました。

「戦後の豊橋の文化活動は、終戦の翌年、市民の有志を以て組織された豊橋文化協会の発足を初めとして、次々と文化団体の誕生をみ、敗戦の混乱の中から、文化的な都市づくりを目指して、活発な活動を展開して参りました。その後、昭和36年に、文化団体の連絡を目的とした豊橋文化団体連絡協議会が結成されました。昨年、豊橋市制60周年を記念して、豊橋市民文化会館が建設されたのを機会に、豊橋の文化運動の飛躍的な発展を目指して、新たに総合的な文化団体を組織しようとの声が高まって参りました。この新団体は、社団法人組織とし、前記連絡協議会加盟団体百団体が拳(こぞ)って参加し、さらに文化活動に関心をもつ市民(個人、法人等)にも協力を求め、名実ともに幅広い市民層を網羅した文化団体の設立を意図しております。」

「豊橋文化ニュース」発刊に際して
「社団法人豊橋文化協会の新聞として、新しく「豊橋文化ニュース」を刊行することとなった。協会設立の目的にしたがって各種の事業が計画されるが、そのなかで新聞の刊行はもっとも重要な意義をもつものである。協会の行事の広報とか、会員団体の活動を紹介するとか、協会と会員との連絡の役目を持つばかりでなく、新聞自体に広い文化的視野をもち、噴水塔のように新鮮な水を噴き出し、この地方に文化の新聞を吹きこみたいものである。さきに、昭和8年に最初に豊橋文化協会が結成されたのち、昭和9年10月に機関紙として「文化」が刊行された。60余頁の雑誌で壮年の河合陸郎、高崎信吉氏等がつねに執筆された。それとやらんで東三新人会から「文化都市」が刊行され、鈴木充、小山三郎氏等が苦悩の時代を反映して鋭い評論を発表した。また、これまでの「豊橋文化」は883号までつづき、大口喜六、豊田珍彦氏等ははじめ数多くの人々が筆を執った。これらの一連の刊行物は、この地方の精神的風土を培ってきたとも言える。今回の「新聞(機関紙)」の編集方針は題名にも示されているように、評論や随筆などの文学作品の掲載よりも、文化的ニュースを紙面に多く盛り込みたいと考えている。従来、こうした新聞がややもすると文学作品偏重に陥りやすい傾向があった。本会の設立目的が広く一般市民の文化の向上を目指しているものであるため、市民の生活文化にまで拡大して積極的に取材し報道しなければならぬ。」なお、その上本紙の使命はあくまで協会の機関紙であるので、会員各位のどんな些細と思われることでも報らせていただいで協会と会員との血の通った新聞をつくりたいと願っている。みなさまの絶大なるご支援をお願いする次第である。(つづく)

伝統文化こども教室を開催しました。

毎年、夏休みに開催している伝統文化こども教室を開催しました。「日本舞踊の部」「三味線の部」「箏曲の部」「剣詩舞の部」「工作の部」「茶道の部」「華道の部」「ゆかたを着てみようの部」の8部門を開催しました。いずれの部門も定員を上回るお申込みをいただき、また各部門で講師を務めてくださる先生方も大変熱心に指導していただきました。8月下旬に新型コロナウイルスの急速な拡大による緊急事態宣言発令を受けて、一部部門は中止を余儀なくされ、9月の伝統文化こども発表会も中止となりましたが、それでも日本舞踊の部などでは最後にミニ発表会を開催して6回の成果発表を行いました。



剣詩舞の部

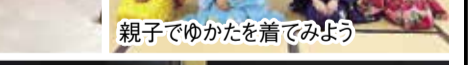


日本舞踊の部

華道の部



茶道の部



親子でゆかたを着てみよう



工作の部

三味線の部

夏蘭けて空き地占めたる狗尾草の風に傾ける思惟のかたち
木を家を大地を草を雨叩くそ
れぞれの姿でが美しく競う
急坂を下る自転車車の長谷川公代
シャツの背のへびじつたら負け
やかき水ピーチメルバを食すれ
ばさくさくさくさく崩れてゆ
きみはバートナー 割れ鍋とは
言わぬ やまぐれに珠美
カトレアの受け皿になる果報
受け皿に郷土料理もお出迎え
更生を誓う人らの受け皿に
難問も心静かに受け入れて
受け皿のない生き方を覚
悟け皿も大きく育つ多様性
受け皿と認めたくないお人柄
重大事受け皿になる覚悟する
受け皿を探す途方もない行脚
旧友の愚痴の受け皿八十路ま
七人の敵妻の受け皿あれはこ
そ受け皿からこぼれ落ちる平
和論の仕事受け皿ならぬ
男の仕事受け皿ならぬ
寺部水川

▼第六四回 令和三年八月
稲光り故山神秘に浮きあがる
林 春美
表彰の猪首をつたふ玉の汗
芋虫の這い出したるや朝の市
夕焼や音沙汰なしの友いかに
蛸壺に海女の挿したる青芒
句会へと銀輪急ぐ初風
瞬間の闇夜明るく稲光
滝の前霊気山気のしづき澄ぶ
田園の中に古民家星月
ウオーキング誘ひ誘はれ星月
波音の虚なる闇星月
秋扇や選る晩学の舞踊
恙無くひと日終わり 篠田和代
訪ふことも訪われる 高橋良子
惜しむことも訪われる 鳥居節子
政界も世も乱れ星月 林 春美
疫病の増ゆる吾が町星月 彦坂艶子
語り種三河の奥の星月 藤田源一
サーカスのテントの寝入る星月 河合澄子